事例No.	1919
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	熊本県水俣市

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・ICT ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	DX

事例内容・タイトル

へき地診療所の医師確保を目的とした遠隔診療モデルの構築

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【熊本県水俣市】
へき地診療所の医師確保を目的とした遠隔診療モデルの構築

DX　病院事業

国保水俣市立総合医療センター総務課情報企画室

● 取組概要

慢性的な医師不足・医療資源の偏在をかかえるへき地診療所の医師確保を継続する手段として、くまもとメディカルネットワークを活用した遠隔診療モデルを構築した。

◆総事業費　システム開発委託費、備品購入費9,848千円

◆背景

- 地域全体の慢性的な医師不足により医療機能が低下するなか、総合医療センターの医師確保と負担軽減が急務となっていた。さらに、へき地診療所への医師確保も年々厳しい状況となり、通院が困難な高齢者が多い山間部の医療機能を維持するために、へき地診療所の医師派遣を維持する必要があった。
- これらの課題を解決するため、ICTを活用した連携型遠隔診療モデルを導入した。

◆具体的内容

- へき地診療所（久木野診療所）と市総合医療センターに既存の医療連携基盤「くまもとメディカルネットワーク」を活用した遠隔診療システムを導入し、医師派遣が困難な時でもリアルタイムに診療情報を共有した遠隔診療を可能にした。
- へき地診療所に遠隔聴診対応ビデオチャットシステムを導入し、医師と看護師が連携し遠隔での心音の聴診や心拍数、酸素飽和度などのバイタル測定が可能となり、より質の高い連携型の遠隔診療環境（＝オンライン連携診療モデル）を構築した。

◆効果

- オンライン連携診療モデル導入により、医師派遣の回数を約24％削減し、医師の負担を軽減した。（令和2年度：93診療日のうち22診療日をオンライン診療で実施）
- へき地でのオンライン連携診療モデルの導入により、過疎地域を含む地域全体で、急性期から在宅医療までの切れ目のない地域医療提供体制を確保した。

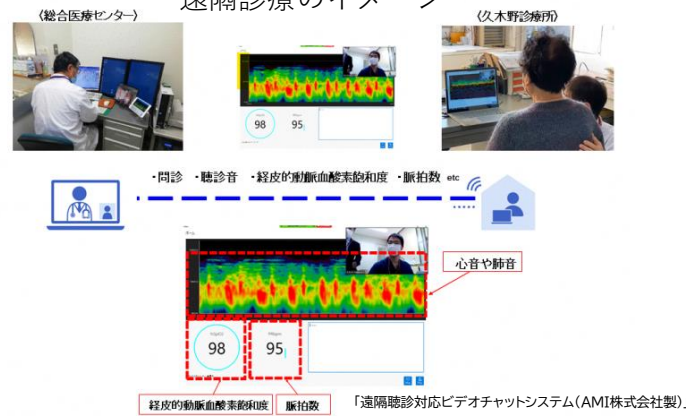
● 取組のポイント

- 過疎地域での医師の確保が厳しい状況の中、本事例においては、市医療センターからの医師派遣の一部にオンライン連携診療モデルを導入し、派遣回数を減らすことにより、市医療センターでの医師確保と負担軽減が実現された。
- オンライン連携診療導入について、地域住民の理解を得るため、検討の初期段階から自治会への説明会と地域住民へ遠隔診療体験会などの広報活動を行った。
- 財源を確保するため、令和3年度過疎地域持続的発展支援交付金等の国庫支出金を活用した。（医療アクセス確保と住民のＱＯＬ向上のための多職種参加型オンライン連携診療モデルの構築事業）

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　23,217人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　163.29 km²（令和4年1月1日時点）
- 許可病床361床（令和3年度決算）

遠隔診療のイメージ



● 取組のスケジュール

- 令和3年度に水俣市と総合医療センターにより、モデル構築の検討を開始。
- 令和3年度にオンライン連携診療モデルの試験的運用、地域住民への予備調査を経て、本運用開始した。
- 令和4年度も引き続き事業を継続し取り組んでいる。

● 今後の展望

- 引き続き、へき地での医療機能の維持を目的とするICT技術を応用した医療DXを推進する。
- 高齢者等医療アクセス困難者が、いつでも医療機関にかかれる環境、医療アクセシビリティをICT技術で支援する仕組みを目指す。